



「COVID-19 対策 展示会開催に関するガイドライン」

監修者 青木晃医師からのメッセージ

本試飲商談会に於ける新型コロナ対策の医学的背景について

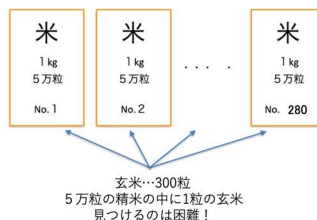
今回、大阪と東京で「カリフォルニアワイン・スプリング・テイスティング 2021」を開催するにあたり、新型コロナウイルス感染症対策の医学的背景についてご説明いたします。

3月8日現在の実効再生産数（感染拡大傾向を表す指標で1人の感染者がその後何人の人に感染させるかを表す）は、東京都0.96、大阪府1.04とほぼ1前後の数値で推移しています。1.5以上で感染拡大傾向、2以上では危険域と考えられており、現状では開催に関して問題なしと判断しております。

実際、今年の1月初旬の第3波のピーク時に比べれば、感染者数（PCR検査陽性者数）は2月下旬以降、完全にピークアウトし、東京都で日々150～300人、大阪府で100人以下というレベルに落ち着いてきています。

これをわかりやすく例えると、下図のようなことになります。

**東京都民1400万人に対し
300人のPCR検査陽性者とは…**



「300人陽性」という状況 ⇨ 「ほとんどの都民はウイルスを持っていない」

東京や大阪などの新規感染者数は人口 10 万人当たり多く見積もっても、1 人～2 人くらいで、しかもその中で、他の人にうつす可能性がある者は 1 割から 2 割といわれています。私たちが他人にうつす可能性のある感染者と出会う確率は、数十万人の人に近距離で会って 1 回あるかないかという程度なのです。また、現在の感染者の多くは医療機関などの院内感染、高齢者施設内のクラスター発生であることもわかっています。

しかし、感染確率が 0 ではない以上、イベント開催などにおいては感染予防対策を徹底する必要があります。

ワイン試飲時のマスク着用とその他注意事項について

新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は、感染者の口から出る唾液飛沫による飛沫感染と呼気から出るエアロゾル（マイクロ飛沫）による、ある種の空気感染であることがわかってきました。

すなわち、マスクなしでの会話や発語、飲食をする状況では感染が成立しやすいわけです。加えて当初から言われている、三密＝密接、密集、密閉の状況下では感染リスクが大幅に上がります。裏を返せば、**三密を避け、常にマスクを着用していれば感染リスクは非常に低くなるのです。**

ワインの試飲会では、ワインを口に含んでテイスティングする、口に含んだワインを吐き出すという行為が伴います。マスクを外して、ワインを吐器に吐き出す際に最も注意が必要です。

- 正面に人がいないことを確認して、吐器として使用する紙コップにできるだけ口を密着させ、静かに吐き出してください。
- 会話や発語する際には、必ず（不織布製）マスクを正しく装着してください。
なお、ワインをテイスティングする際には、マスクを顎下に下げていただいて結構です。

- 手指消毒をこまめにしていれば、物に付着したウイルスによる接触感染はほぼブロックでき、マスク表面を手で触って上げ下げすることに問題はありません。（ただし手指で直接、口、鼻、目を触ることはNG）

マスクの材質ですが、色々な研究から、不織布製のマスクであることが求められます。布製やウレタン製マスクは感染予防において、（不織布製マスクに比べて）性能面で問題があることが明らかになっています。よって、試飲会場内では、接触皮膚炎などでその着用が困難である場合を除き、原則として不織布製マスクをご使用ください。

吐器に吐き出した内容物を指定の場所で捨てる際にも、周囲に飛び散ったりしないように留意願います。

また、本試飲会では、三密を避けるため、以下の対策を取るようにいたします。

- 会場の換気に留意し、要所には高性能空気清浄機「Airdog X5s」を配置
- 各出展ブースの前に立つことができる人数を原則2名、最大3名までとする
- 会話をする際には、できる限り2mの距離を取り、5分以内（できれば2～3分くらい）にとどめるようにする

以上、色々とお不便をおかけ致しますが、ご来場いただく皆さま方全員の安心と安全のため、ご理解ご協力いただきたくお願い申し上げます。

2021年3月10日

レコール・デュ・ヴァン渋谷校 校長 兼
医療法人社団優惠会 銀座よしえクリニック都立大院 院長
青木晃